

連載—三六年間の教育を振り返る⑧—

「総合的な学習の時間」が始まった

2002年の学習指導要領から「総合的な学習の時間」が始まりました。学校週五日制となつて授業時数が足りないのに週3時間も「総合的な学習の時間」を設置しました。現代的な課題を学ぶ学習は、これ以前にも行ってきたことを前回はお話しましたが、そうであるならば、教科を削つても行つてきた内容を「総合的な学習の時間」として時間が確保されたという風に捉えたら良いのに、現場の受け止め方は、目新しいことをしなければならぬという受け止め方をしていました。

その時に保護者向けに書いた通信から、「総合的な学習の時間」を振り返ってみようと思います。

☆2002/5/7 保護者向け通信より

「総合的な学習の時間」が始まったのですが…

連休中に神戸に住む弟の子どもがうちに遊びにきていました。6年生です。それで「総合的な学習の時間」に何をしているのかと聞くのと、ワールドカップが近いことから、日本に来る国を世界地図で調べたり、どの国が日本のどこでキャンプするのか日本地図に書く作業を

したりしていると言うのです。「それで、あなたはおもしろいんか？」と尋ねると、「全然おもしろくない。」と言います。なんでワールドカップに決まったのか聞くと、どうやら、担任の先生がクラスのみんなに何を調べたいのか聞いて、多数決でワールドカップに決まったらしいのです。「それで、あなたは何したかったん？」と聞くと、「ハムスターについて調べる手を挙げた。」と言います。「ハムスターやったら楽しかったん？」と聞くと、「きつとおもしろくないと思う。」と言う答えが返ってきました。

全然知りもしない先生を批判するのは、へんな話ですが、こういった授業を「総合的な学習の時間」にしていたら、学校はきつと支持されないと思います。このような授業には次のような点で問題があると思われるます

▼子どもに課題選択させる危うさ

子どもの興味関心を大切にして、課題選択させるというのは今流行で、一見子どもの側に立った授業に思われますが、これは、大変高度な学習です。それに、多数決で学ぶ内容が決定してしまうのは、個人の興味関心に基づき課題を設定するという主旨には全く反することになります。

▼何を教えるかが問われていない

国語や算数などの教科は、それぞれその背後には、文化や科学といった教養があり、私たちはそこから、教える中身を教材という形にして

取り出し子どもに教えます。そして、どの学年でどの様なことを教えたらいのか、長い年月にわたって実践・研究されてきました。しかし、先ほどの「ワールドカップ」についての学習で一体何を教えるというのでしょうか？文部科学省は、総合的な学習の内容として、「国際理解」を挙げていますが、それに当たるのでしょうか？この様な内容は、文化や科学に根ざしていないし、実践例も少ないです。どうしても必要な学習とは思えません。

時間割に「総合的な学習の時間」が「ある」から「やる」というのは、全くの間違いで、教える中身がないのにとりあえずやる総合の授業はとても危険だと思えます。このような学習が、保護者に理解されるわけなく、教える中身がないのであれば、教科学習を進めた方が良いと思われまます。

私が教師になる前からの教育の流れ

1971	学習指導要領改訂 現代化カリキュラム (詰め込み)
1980	学習指導要領改訂
1985	小学校採用と 校で体育教師として
1988	養護学校から小学校
1992	学習指導要領改訂 新学力観 (個性にかす教育) 生活科の導入
2002	学習指導要領改訂 ゆとり教育「生きる力」 総合的な学習の時間 完全週五日制
2003	歯止めの撤回 (発展的な学習)
2011	学習指導要領改訂 ゆとり

今回はこの辺りのお話

—子どもの日記から—

兄弟にぎやか 第七回目—翼君の日記から

今回もかつての勤務校で、持ち上がりで二年間受け持った翼君という男の子の日記を紹介します。翼くんは四兄弟で、翼(つばき)くん—航(わたる)くんを担任しました。日記に出てくるのは、弟の疾(はやて)くんです。

□「はやてがきえた」 六年 翼

スイミングが終わって、家に帰ってきました。ぼくがご飯を食べているときは、いつもぼくの三番目の弟の「はやて」は、まだ起きてるのに、今日はいませんでした。ぼくは、(もう、ねたんやな。)

と思っていました。

「ご飯を食べて、ぼくも、

「おやすみ。」

と言ってねようとしたら、はやてがいなかったのです。ぼくは、お父さんに、

「はやて、どこいったん。」

と聞くと、

「知らんぞ。」

と言ったので、家族みんなで、はやてをさがしました。ベッドの下にも、おし入れの中にも、ベランダやトイレの中もさがしたけど、どこにもいませんでした。

おばあちゃんのふとんの中にもぐりこんでないか調べてもらったけど、いませんでした。

「はやてー、はやてー。」

と何回言っても返事がないので、わたるが、「一一〇番や。」

と言いまくっていました。

それから、またさがすと、はやては、おばあちゃんのおし入れのおく深くでねていて、やっと見つかりました。見つけたときは、気がぬけて、おこる気にもなりませんでした。

本当にいなくなったらどうしようかと思っただけ、見つかってよかったです。

1998.4.24

男四兄弟はとてにぎやかそうです。日々いろんなことが起きて、それを日記に書いて来てくれます。ここでは、三番目の弟がいなくなると、大騒ぎした様子を書いています。家族全員が心配になってさがしていたようです。みんなの心配をよそに押し入れてねていた「はやて君」でした。

次の日記に登場する「たくみ」君は、男四兄弟の末っ子です。「たくみ」君はこのときは幼稚園に通っていました。しやはたの印が珍しかったのでしよう。家の至る所に印をおしたようです。このときは、校区に家を建てられたばかりの時だったので、新しくともきれいな家でした。それこそ印を消すのに大変だったことでしょう。

□「たくみのしやはた」 六年 翼

これは、一学期のある月曜日のことでした。

ぼくが、スイミングから帰ってきて、ご飯を食べたり、明日の学校の用意をしったりしていました。弟のわたるが明日のプールの用意をしていたので、ぼくも、明日の学校のプールの用意をしようと思いました。

プールカードを出して、お母さんにはんこをおしてもらおうとしたけど、しやはたがないようです。お母さんが、

「しやはたどこか知ってる。」

と聞いてきたけど、

「そんなん知るはずないやん。」

と言いました。

引き出しをさがしてもないから、家族でさがしました。前には、はやてがかくれていた押し入れもさがしました。家のいろんな所をさがしていたけどありませんでした。(どこにいったんやろ。)

と思いつつさがしていると、

「物知りのたくみやったら知ってるのちやうか。」

と家族のだれかが言って、たくみをさがしました。

(また、はやてみたいにとっかにかくれてんのかな。)と思いつつ、一階をさがして、二階に行くとうとすると、階段の両はしに、「○○」と、丸でかこんだ赤い文字が打ってありました。二階に上がると、その字はいろんな所についていました。

その後、たくみはしやはたを取り上げられ、お父さんとお母さんに、どえらいおこられました。

その夜のうちに、みつけた所は全部けしました。でも、机や本にまでもしやはたがおしてありました。

今回のことで、「物知りのたくみ」が「しやはた」というあだ名になってしまいました。

1998.9.